

女子短大生の学習意欲に関する研究（2）

武 藤 玲 路

A study on learning motivation of female college students (2)

Ryoji MUTO

キーワード：学習意欲、外発的動機づけ、内発的動機づけ、アルバイト、女子短大生

1. 問題と目的

1.1 筆者による学習意欲の先行研究

武藤（2019）は「女子短大生の学習意欲に関する研究」において、女子短大生を対象とした学習意欲の規定要因に関する予備調査を実施した。質問項目は「やる気が出た授業」「やる気が出た活動」「最もやる気が出たエピソード」に関する自由記述とした。

その結果、「最もやる気が出た授業」では、①学生のやる気と「授業科目の領域」には関連がなく、②「就職や将来の役に立つスキルアップ」、③「アクティブラーニングの要素」、④「教員の教育力や人格」が関連していることが分かった。また、「最もやる気が出た活動」では、⑤学生のやる気と「金銭的報酬を伴う労働」、⑥「物理的報酬と心理的報酬の両方」が関連していることが示唆された。さらに、「最もやる気が出た言葉や態度」では、⑦学生のやる気の高揚には「心理的報酬」「自己効力感」「自己決定」「達成動機」などの「自己調整学習の心理的要因」が有効であることも示唆された。⑧このことについては、「最もやる気が出た状況」においても同様の結果が示された。

以上の結果から、女子短大生の学習意欲（やる気）は、「就職や将来の役に立つスキルアップ」「アクティブラーニング」「教員の教育力や人格」「金銭的報酬を伴う労働」「物理的報酬と心理的報酬」、そして「自己調整学習の心理的要因」と何らかの

関連があることが示唆された。

1.2 本稿の目的

そこで本稿では、上述した「女子短大生の学習意欲に関する研究」の継続研究として、前回の調査で学生が「最もやる気が出た活動」にあげた「アルバイト」への動機づけについて調査し、学習意欲の促進につながる学習プログラムや教授法の開発の一助とすることを目的とした。

2. 方 法

2.1 調査対象

長崎女子短期大学生生活創造学科ビジネス・医療秘書コースの女子学生、1年生23名（平均年齢約19歳）、2年生28名（平均年齢約20歳）を調査の対象とした。

2.2 調査時期・場所

2020年10月中旬に上記の短期大学内の教室で調査を実施した。

2.3 質問紙・所要時間

質問紙は「やる気（意欲）とアルバイト」に関する質問に9段階評価で回答する形式とした。質問項目は4項目で、回答の所要時間は約10分間であった。

3. 結果と解釈

女子短大生の学習意欲とアルバイトに関する調査の結果を以下に示す。

3.1 「やる気が出る活動」について（9段階評価、4項目）

図1は「やる気が出る活動」に関する4項目の種類について、9段階評価で回答を求めたものである。その結果、最もやる気が出る活動は「趣味・特技7.9」で、次に「アルバイト6.5」「資格・認定・検定のための授業・学習6.5」「演習や実習系の授業・学習6.2」の順であることがわかる。

趣味・特技のやる気が高かったのは、行動の要因が内面に湧き起こった興味・関心や意欲などの自発的な刺激による「内発的動機づけ」が影響しているのではないかとと思われる。

しかし、武藤（2020）が行った同様な調査で「アルバイト」が圧倒的に高い評価であったのと異なる結果である。その理由としては、2020年の3月頃から全世界で大流行し1年以上にわたって猛威を振るっている新型コロナウイルスの感染症対策で、学生のアルバイトがほとんどできなかったためでないかと考えられる。本来であれば、行動の要因が評価・賞罰・強制などの人為的な刺激による「外発的動機づけ」が影響するアルバイトのやる気も著しく高いと思われる。

3.2 「最もやる気が出たアルバイト」について（自由記述、10項目）

表1は「最もやる気が出たアルバイト」に関する

10項目の内容について、自由記述で回答を求めたものである。その結果、最もやる気が出た①職種は「飲食店のサービス」、②業種は「飲食業」、④業務内容は「ホール」、⑤給与形態は「時間給」、⑤授業期間中の平均的な1週間の合計勤務回数は「2回以上4回未満」、⑥授業期間中の平均的な1週間の合計勤務時間「5時間以上10時間未満」、⑦授業期間中の平均的な1か月の収入「30,000円以上40,000円未満、50,000円以上60,000円未満」、⑧長期休暇中の平均的な1週間の合計勤務回数「4回以上6回未満」、⑨長期休暇中の平均的な1週間の合計勤務時間「30時間以上、15時間以上20時間未満」、⑩長期休暇中の平均的な1か月の収入「100,000円以上」である。

よって、アルバイトをしている学生の多くは、それぞれの業務において労働時間に応じた適切な金銭的報酬を得ていることがわかる。

3.3 「アルバイトのメリット・魅力」について（9段階評価、6項目）

図2は「アルバイトのメリット・魅力」に関する6項目の内容について、9段階評価で回答を求めたものである。その結果、最もメリットや魅力を感じる要因は「金銭的（物理的）な報酬があるため」で、次に「向上心のため（スキルアップ・適応力・社会性）」「やりがい・達成感・充実感を味わえるため」の順であることがわかる。

よって、アルバイトのメリットや魅力によって生じるやる気の促進には、「金銭的（物理的）な報酬」による外発的動機づけの影響が大きいこと

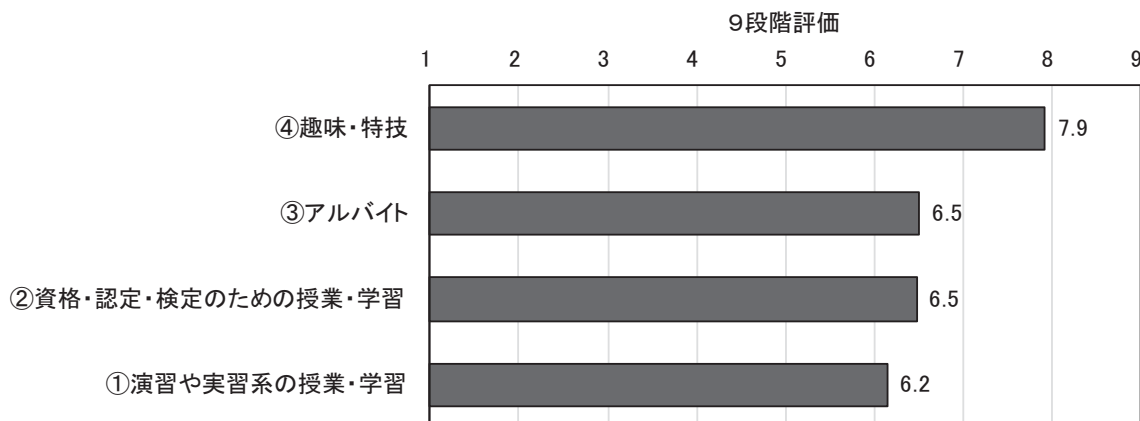


図1. やる気が出る活動（9段階評価）

表 1. 最もやる気が出たアルバイトについて

質問	回答	人数	質問	回答	人数
①職種	飲食店	11	⑦授業期間中の平均的な1か月の収入	30,000円以上40,000円未満	6
	サービス	5		50,000円以上60,000円未満	6
	派遣	2		40,000円以上50,000円未満	5
	販売	2		20,000円以上30,000円未満	4
	小売業	1		10,000円以上20,000円未満	2
	接客	1		60,000円以上70,000円未満	2
	営業	1		100,000円以上	2
	その他	1		10,000円未満	1
②業種	飲食業	11		70,000円以上80,000円未満	1
	サービス業	9		90,000円以上100,000円未満	1
	接客業	6		平均	45,940
	その他	3	⑧長期休暇中の平均的な1週間の合計勤務回数	4回以上6回未満	17
③業務内容	ホール	12		2回以上4回未満	13
	レジ	7		6回以上	4
	その他	7		平均	4.0
	キッチン	4	⑨長期休暇中の平均的な1週間の合計勤務時間	30時間以上	9
	接客	2		15時間以上20時間未満	9
④給与形態	時間給	36		5時間以上10時間未満	7
	成果給	1		20時間以上25時間未満	6
⑤授業期間中の平均的な1週間の合計勤務回数	2回以上4回未満	17		10時間以上15時間未満	3
	4回以上6回未満	12		25時間以上30時間未満	2
	2回未満	3		平均	22.0
	6回以上	1	⑩長期休暇中の平均的な1か月の収入	100,000円以上	8
	平均	3.1		40,000円以上50,000円未満	5
⑥授業期間中の平均的な1週間の合計勤務時間	5時間以上10時間未満	8		60,000円以上70,000円未満	5
	15時間以上20時間未満	7		70,000円以上80,000円未満	4
	10時間以上15時間未満	6		30,000円以上40,000円未満	3
	20時間以上25時間未満	4		10,000円以上20,000円未満	2
	25時間以上30時間未満	4		50,000円以上60,000円未満	2
	5時間未満	3		90,000円以上100,000円未満	2
	30時間以上	1		20,000円以上30,000円未満	1
	平均	14.2		80,000円以上90,000円未満	1
				平均	67,455

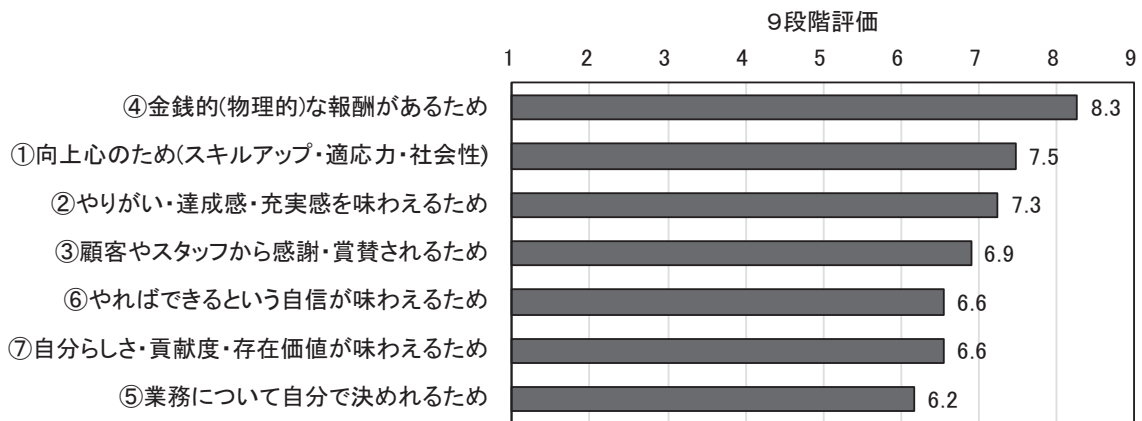


図 2. アルバイトのメリット・魅力 (9段階評価)

が示唆される。

3.4 「アルバイトのデメリット・負担」について (9段階評価、6項目)

図3は「アルバイトのデメリット・負担」に関する6項目の内容について、9段階評価で回答を求めたものである。その結果、最もデメリットや負担を感じる要因は「身体的な疲労やストレスが

ある」で、次に「自由な時間が拘束される」「精神的な疲労やストレスがある」の順であることがわかる。

よって、アルバイトのデメリットや負担によって生じるやる気の抑制には、「身体的な疲労やストレス」の影響が大きいことが示唆される。

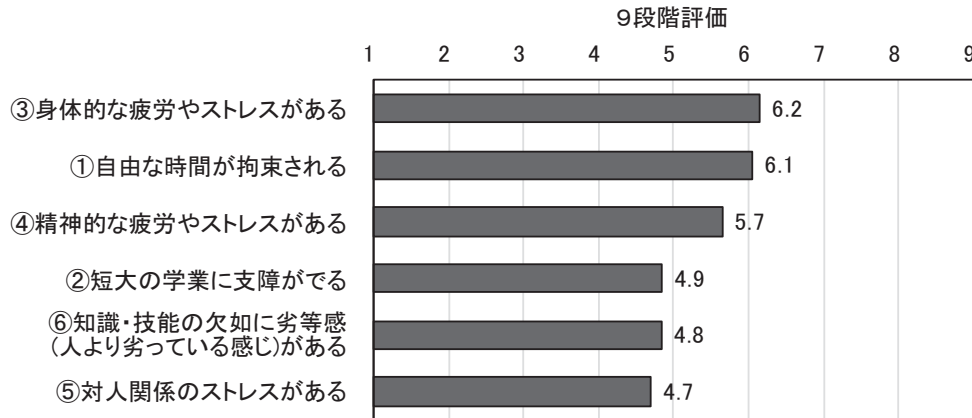


図３．アルバイトのデメリット・負担（９段階評価）

４．ま と め

４．１ 本稿の要旨

本稿は、筆者が継続的に取り組んでいる「女子短大生の学習意欲に関する研究」（武藤、2020）の一環として実施した調査報告である。今回は、前回の調査で学生が「最もやる気が出た活動」にあげた「アルバイト」への動機づけについて調査し、女子短大生の学習意欲を促進する学習プログラムや教授法の開発の一助とすることを目的とした。

その結果、最もやる気が出る活動は「趣味・特技」で、次に「アルバイト」「資格・認定・検定のための授業・学習」「演習や実習系の授業・学習」の順であった。今回、趣味・特技のやる気が高かったのは、行動の要因が内面に湧き起こった興味・関心や意欲などの自発的な刺激による「内発的動機づけ」が影響しているのではないかとと思われる。

また、最もアルバイトにメリットや魅力を感じる要因は「金銭的（物理的）な報酬があるため」で、次に「向上心のため（スキルアップ・適応力・社会性）」「やりがい・達成感・充実感を味わえるため」の順であった。従って、アルバイトのやる気の促進には、行動の要因が評価・賞罰・強制などの人為的な刺激による「外発的動機づけ」の影響が大きいことが示唆された。

以上のことから、女子短大生のやる気には、趣味・特技に含まれるような「内発的動機づけ（内的要因）」の要素と、アルバイトに含まれる「外発的動機づけ（外的要因）」の両方が重要である

ことが示唆された。

４．２ 学習意欲の３つのレベルの構成要素

桜井（1997）は、児童の学習意欲が発現するプロセスには、「認知・感情」、「学習行動」、「欲求・動機」の３つのレベルがあるとした。そして、「(1) 認知・感情」レベルの構成要素には「⑩おもしろさと楽しさ、⑪有能感、⑫充実感」、「(2) 学習行動」レベルの構成要素には「④情報収集、⑤自発学習、⑥挑戦行動、⑦深い思考、⑧独立達成、⑨協同学習」、「(3) 欲求・動機」レベルの構成要素には「①知的好奇心、②有能さへの欲求、③向社会的欲求」が含まれるとした。

これらの構成要素の多くを満足させることができれば、学習意欲の促進にもつながると思われる。学習意欲の構成要素の詳しい説明は、以下通りである。

(1) 「認知・感情」レベルの構成要素

- ①「おもしろさ・楽しさ」：結果に依存しない感情で、失敗したとしても感じる事ができ、知的好奇心が活性化していれば得られる感情。
- ②「有能感」：学習行動がうまくいったとき、成功したときに感じる事が多い感情。ほめられることにより、高まることもある。
- ③「充実感」：向社会的欲求に基づく動機が達成された場合に感じる事ができる感情。

(2) 「学習行動」レベルの構成要素

- ④「情報収集」：主に知的好奇心によって、興味・関心のあることについて情報を集め

る行動。

- ⑤「自発学習」：自ら進んで学習に取り組んだり、計画を立てて学習をしたりする行動。
- ⑥「挑戦行動」：今よりも少し難しい問題に挑戦する行動。
- ⑦「深い思考」：問題の解決法を複数考えたり、よりよい解決法を考えたり、仮説や考えを自分なりに吟味したりする行動。
- ⑧「独立達成」：できるだけ自分一人の力で問題を解決しようとする行動。
- ⑨「協同学習」：友達と協力して問題を解決する行動。

(3)「欲求・動機」レベルの構成要素

- ⑩「知的好奇心」：未知のことや珍しいことに興味・関心をもち、それらを探究したいという欲求。
- ⑪「有能さへの欲求」：より有能になりたい、より賢くなりたいという欲求。
- ⑫「向社会的欲求」：社会や人のためになりたいという欲求。思いやりの気持ちとも関連する。

4.3 学習意欲の構成要素への働きかけや声掛け

桜井（1997）は、児童の学習意欲が発現するプロセスに着目し、学習意欲の構成要素に意図的に働きかけることで、学ぶ意欲は向上すると述べている。また、学習意欲における「欲求・動機」「学習行動」「認知・感情」は密接に関わっているため、1つの要素への働きかけが複数の要素に影響を与えることがあるとも述べている。

すなわち、学習過程における教師の働きかけや声掛けの重要性と有効性を説いている。学習意欲の構成要素に対する働きかけの詳しい事例は、以下の通りである。

(1)「認知・感情」への働きかけの例

- ①「学習の成果の確認(充実感、おもしろさ・楽しさ)」：学習したことを作品、ポートフォリオなどにまとめさせ、学習の振り返りができるようにする。
- ②「ポジティブな個人内評価（有能感）」：教師から作品のよさ、個人内の伸びなどよい

面への評価を与えるとともに、自己評価をさせる。

(2)「学習行動」への働きかけの例

- ③「応用・発展の課題（挑戦行動）」：応用・発展の課題を提示し、自分で工夫して学習させる。
- ④「学び合い、教え合いの場（協同学習、深い思考）」：友達との考えを比較する場を設定し、様々な見方、考え方に気付かせる。
- ⑤「主体的に学ぶ場(自発学習、情報収集)」：課題や学習方法を選択させ、次第に自ら課題を見いだせるように指導する。
- ⑥「自己決定・自力解決の場（独立達成）」：目標を決めさせる。みんなで考えたことを基に、自分でまとめさせる。

(3)「欲求・動機」への働きかけの例

- ⑦「自分の特性や長所の自覚（向社会的欲求）」：様々な体験活動や自己評価・相互評価などを通して、自分の特性やよさに気付かせる。
- ⑧「キャリア教育（向社会的欲求）」：社会で活躍する様々な人に目を向けさせ、夢や目標をもたせる。
- ⑨「めざす姿や作品の提示（有能さへの欲求）」：作品や演技など、めざす姿や形を例示し、実現のための具体策を考えさせたり、指導したりする。
- ⑩「学習の見通しをもたせる（有能さへの欲求）」：単元の学習の見通しをもたせて励まし、「自分にもやれそうだ」というイメージを抱かせる。
- ⑪「生活実態と教材との関連(知的的好奇心)」：興味や日常生活と教材を関連付ける。
- ⑫「疑問や意外性を生み出すしかけづくり(知的的好奇心)」：「なぜ」「えっ、そうなの」など、疑問や意外性を感じさせる場面を設定する。

4.4 今後の展望

今後は、よりの確で有効な学習プログラムや教授法を構築していくために、実際の授業に中で「内

発的動機づけ」と「外発的動機づけ」を取り入れた手法を用い、その効果を測定し可視化して、さらなる検討資料としていきたい。

具体的には、上述した「学習意欲の３つのレベルの構成要素」と「学習意欲の構成要素への働きかけや声掛け」の手法を導入していきたい。

参考資料

- 1) 瓦井千尋、「学ぶ意欲をはぐくむには ―学習に関するアンケートを活用して―」、栃木県総合教育センター、(2011)、http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/cyosa/cyosakenkyu/manabuiyoku_h22/pdf/manabuiyoku_h22_all.pdf
- 2) 木下陽子、「学習意欲を高める教師の関わり ―数学科の授業における子供の意欲を伸ばす言葉かけ―」、東京学芸大学、(2014)、http://www.u-gakugei.ac.jp/~graduate/kyosyoku/h_data/data/annual_report_2014_paper18.pdf
- 3) 桜井茂男、「学習意欲の心理学～自ら学ぶ子どもを育てる」、誠信書房、(1997)
- 4) 武藤玲路、「女子短大生の学習意欲に関する研究」、長崎女子短期大学紀要、45、28～34、(2020)
- 5) 文部科学省、「学習意欲と学習プロセスとの関係」、(2015/ 9 /29)、https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/gijiroku/_icsFiles/afieldfile/2015/09/29/1362371_2_2_4_3.pdf

謝 辞

本稿に掲載した調査の実施および集計・分析に際して、長崎女子短期大学事務職員の田頭未幸様に多大なるご尽力を賜った。ここに記して感謝の意を表したい。